

PEM021-P17

会場:コンベンションホール

時間: 5月24日17:15-18:45

## NICT準リアルタイムTEC導出システムの運用結果 (2005-2009年)

### Derivation of near real-time TEC for monitoring ionospheric disturbances

三宅 亙<sup>1\*</sup>, 陣 英克<sup>2</sup>

Wataru Miyake<sup>1\*</sup>, Hidekatsu Jin<sup>2</sup>

<sup>1</sup>東海大工, <sup>2</sup>情報通信研究機構

<sup>1</sup>Tokai University, <sup>2</sup>NICT

GPS受信網の整備とデータの早期公開により、電離圏全電子数 (TEC) の定常的なモニタリングが可能となっている。情報通信研究機構では、国土地理院のGEONETデータから迅速にTECを導出するシステムを開発し、2005年以降、日本上空の電離圏の定常的な監視に利用している。この監視システムは、TEC確定値からのずれが1-2 TEC unit以内で、1度に3時間分のデータを、1-3時間程度の時間遅れで、日本上空のTECの値を5つの緯度帯に分けて、提供・表示するものである。さらに、2008年以降は、日本全土のTEC値のマップ形式での表示が加えられ、細かい空間構造をもつ現象の検出も可能となっている。この監視システムは、電離圏嵐をはじめとするさまざまな電離圏擾乱の発生・伝播・衰退をモニターするのに優れ、きわめて有効である。この発表では2005年以降、5年間に及ぶ運用結果を中心に報告する。

キーワード:全電子数,電離圏擾乱

Keywords: TEC, ionospheric disturbances